

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1432号 1998年05月11日(月)

《 with speed or quickly 》

今週はサミットの週ですが、この年に一度の一大政治ショーの基調は先週末にロンドンで開かれた準備会合（外相・蔵相会議）での討議や、そこからまとまった総括文書で既にかなり鮮明になっています。サミットの様子は日曜日の日本の新聞に載っている通りですが、その後の色々な海外の報道を見ていると、16兆円を上回る景気刺激策を打ち出した日本に対してまだ各国の首脳は安心感を持っていないし、むしろ不安げに見守っている様子が伺える。こうした不安感は、今週の日本の金融市場にも伝搬するでしょう。

総括文書の日本に関する表現はマイルドなものです。

「 "Japan expressed its intention to implement [stimulus] quickly and stressed the importance of further strengthening the financial system." 」

と書いた上で、参加国は「日本が4月に発表した内需主導の成長を目指す政策を歓迎した」とある。それはそうでしょう。16兆にも上る景気刺激策を決定したばかりの国に対して、本来ならもう言うことなどないはずですし、あってはならない。

しかし、今回の総括文書やその後の各国外相・蔵相の発言を読んでいて思うのは「quickly」とか「with speed」という単語がやたら目に付く。つまり、規模とかは十分だが、日本に足りないのは「quickly」とか「with speed」で表現できる行動だ、と言っているわけです。よほど世界から日本政府は「鈍足」だと思われているらしい。各国のイライラはどうもこの点に集中している。金融市場のイライラもそうでしょう。

多分松永蔵相はこうした懸念に対して、「いや国会審議がこうなっていて」という説明をしたに違いない。しかし、日本の政治システムにあまり詳しくない各国の外相・蔵相には、「何か言っているが、要するに規模は揃ったが遅れるということか」と受け取られた筈です。それが、16兆円もの景気刺激策を決定した国への付加的な注文となっている。

各国は日本に対して思い思いのことを言っている。議長国のイギリスの蔵相は、「金融システムへの取り組みをもっとすべきだ」といい、ドイツの蔵相は「税制を中心とする構造改革が重要」と述べている。イタリアの蔵相は辛辣で、「日本は大規模な計画を発表するが、それを約束したようには実行せず、または期待した成果を得ずにうやむやにする傾向があ

る」とまで言っている。ドイツの蔵相に「構造改革の必要性」を説かれるのもどうかと思うのですが、準備会合はそういう雰囲気だったようです。

準備会合に出席した各国外相・蔵相の懸念には、金融市場全体の日本政府の政策に対する懸念、不信感につながるものがある。つまり、何をすることも「遅い」、時間がかかる、先送りする。そしてただ単に「99年度」とか「2000年度」に2~3%の成長を達成したいが為の景気刺激策なのか、それとも日本を長期成長軌道に乗せるための構造改革を伴う政策を目指すのかわからない、という点です。

市場も各国外相・蔵相も、多少の視点の違いはあるにせよ日本政府を「鈍足」だと見ているし、日本政府には「日本を長期成長路線に戻す政策が欠けている」と見ているわけです。また、日本は90年代の半ばにも公共投資を中心とする大規模な景気刺激策をとって、確かにその翌年には先進国一の成長率を確保した。

しかし、その成長が長続きしなかったのは今の状況を見れば明らかです。各国外相・蔵相も、そして市場も、今回の刺激策に「その二の舞」を懸念している。そしてその「懸念」を引きずったままサミットは開幕することになりそうです。日本政府には、「時間」のファクターが極めて重要になっている。あと必要なのは、徹底した規制緩和、ある程度の safety net を作った上での人材流動化措置、企業に「日本に本拠を置きたい」と思わせる法人税制、個人に働く気を起こさせる所得税制です。

《 required vigilance 》

今回の準備会合における「総括文書」での特徴のもう一つは、アメリカ経済に関して「警戒が必要」との文言が入ったことです。文書はこう述べている。

「“ Wenoted that the United States economy required vigilance to stay on a sustainable path. ”」

これは株高基調の突然の崩壊などによりアメリカ経済が思わぬ変調をきたし、これが世界経済の波乱要因になることを避けたいとの日本を含む各国外相・蔵相の懸念を反映している。この総括文書の文言に対してルービン財務長官は、「4月の米失業率が28年ぶりの低水準になったことは、世界最大のアメリカ経済が地平線上にインフレ懸念もなく着実な成長を遂げている事を示している。私の直観では、アメリカ経済は確固たる、インフレなき道を歩んでいる」と述べている。

これは市場に向けて総括文書でアメリカ経済に警鐘を発し、財務長官によって不安感を治めるといふなかなかうまい戦術ですが、この文言によってアメリカ経済の舵取りは今後かなり難しくなる可能性があります。ある意味で、アメリカの金融政策は「成功のジレンマ」の最中にある。

アメリカ経済の「成功」は、先週末の雇用統計でも明らかです。4月の失業率は4.3%と28年ぶりの低水準になった。3月の4.7%からの大幅低下。月次低下幅としては、59年12月以来ほぼ38年ぶりの大幅なものだという。水準としては、1970年2月の4.2%以来の低水準。

当然利上げ懸念が市場では出て当初債券相場は下がったのですが、それでも株は大幅に上昇した。今のニューヨークの株価は、多少の利上げ懸念など問題にしない力強さがある。これは、市場に大量の資金が流れ込んでいるためですが、サミット準備会合は正にこの点を懸念したと言える。これが「ジレンマ」の一つの形です。政策全体が成功すればするほど、株価や資産価格は上がる。しかしそれを続けていると、いつか「hard-landing」(強制着陸)しかなくなるというジレンマ。

もっとも、雇用統計の失業率の大幅低下には特殊要因も多いようです。去年3月だったイースターが今年は4月に入っていること、職探しをする人の数が減少したことなど。しかし、4月の雇用統計には家計調査による失業「率」以上に、懸念すべき数字も多い。

1. 非農業部門の就業者数が、またしても予想を上回る増加を示した
2. 時間当たり賃金が、去年に比べて4.4%も増加した

など。これらの統計が発表された直後の債券市場の knee-jerk reaction は金融市場の「利上げ懸念」を反映している。

しかし、それでもまだ次の今月19日のFOMCでは「利上げはない」との見方が大勢のようです。それは、労働市場などで高まっていると見られるインフレ圧力が、全く消費者段階での物価上昇に繋がっていないこと。実際に、物価は極めて安定している。卸売り、小売り両段階でそうです。

《 focus on inflation figures 》

その意味で今週は注目される統計がいくつも出る。今週の主な予定は以下の通りです。

12日(火曜日)	5月の日本の月例経済報告(経済企画庁) 4月の日本の卸売物価(日銀)
13日(水曜日)	4月の米小売売上高 4月の米卸売物価 クリントン米大統領がドイツ訪問
14日(木曜日)	4月の米消費者物価 ドイツ連銀理事会 3月の日本の機械受注
15日(金曜日)	先進国サミット(17日までバーミンガムで) 4月の米鉱工業生産・設備稼働率

ところで、先週の金曜日に日本経済研究センターで講演している最中でしたが、インターネットをオンにしていたのでその最中に飛び込んで来て、会場の人達に「ああ、こんなニュースが飛び込んできていますね」と言ったものに「NY証取、ウォール街から移転へ」というのがありました。その時は英語のニュース画面（多分 Nando だったと思う）を見ていたので、見出しや本文は無論英語でしたが。

このニュースの内容は、「ニューヨーク証券取引所が現在のウォール街から移転することがほぼ確実となった。同取引所は手狭になった立会場の移転・拡張を計画していたが、移転候補地が市内の近接地とハドソン川対岸のニュージャージー州の2つに絞り込まれてきたからだ。同取引所は近く結論を出す見通しで、“ウォール街”という世界の金融センターの代名詞は名前だけのものとなる」（日経のサイトから）というもの。

「Wall Street」というのは実際にマンハッタンの南端にある通りの名前ですから、ニューヨーク証券取引所がニュージャージーに移ってしまえば、本当はもう「ウォール街」は使えなくなる。しかし、世界中のマスコミは使い続けるんでしょうね。また証券取引所の方も行ったニュージャージー州の新しい場所の近くの通りを「New Wall Street」なんて付けて、“ウォール・ストリート”の名前を残すかもしれない。「Wall Street」は捨てがたい名前ですから。

〈 have a nice week 〉

週末は両日ともまずまずの天候でした。温度も安定してきたし、良い天候が続きそうです。週末に乗った電車の吊り広告を眺めていたら、今週の「ニューズ・ウィーク」には「ユーモセラピー」という記事があるようだ。これは近代医学、漢方治療など伝統的な治療法とは違って、心を活性化させるユーモア（ジョーク、漫才なんでも笑えるモノ）を使って患者の病的状態からの脱出を目指す治療法のことでしょう。

誰かにジョークを言われたとき、気持ちが一瞬軽くなったり、リターンを返そうとすることによって頭がフル回転するのは良く体験することです。つまり、笑いは心と体を活性化する。血の巡りを良くし、頭の働きと、気の動きを促す。事実、どうしようもない難病の患者に恒常的にジョークと笑いを与えることによって、その患者が完治したという報告もいろいろあるようだ。

で、小生が考えているのは、「今の日本経済にそのユーモセラピー」が必要なのではないかということ。いや、真面目な話。政治家の顔を明るくするのが最初だという意見もあるでしょうが。

というわけで、今日は週末に昔の知り合いがメールで送ってくれたユーモア集の中からいくつかを選んで、ご覧に入れましょう。まだこのユーモアを読んで直ちに笑いが出てくるようなら、あなたも、そして日本経済も OK です。これは真面目に出版社の人に言っているのですが、東洋経済でも日経ビジネスでも一冊丸ごと「ユーモア特集」でもやったらどうだい……と。

『「絶体合格しますように」と書いてある絵馬を見て、多分合格しないだろうな、と思った。』(4.21 ぴあ)

『阪急電車の中、3歳位の男の子がおしっこをしたがっている様子。子供「ママおしっこ」。ママ「どうしてもっと早く言わへんのっ」。すると子供は何を考えたのか、早口で「ママッおしっこ。』(2月号Lマガジン)

『大幅に遅れたバスにおじさんが乗り込みながら、「バスってえのは遅れた時は待たにゃならんが、客が遅れた時は1分だって待ってくれずに、ハイ、サヨナラだからな」と言った時、あとに続く乗客全員がうなずいた。』(2.11 朝日新聞)

『某工場内の「おれがやらなきゃだれがやる」という看板の、「だれが」の「が」の点が削られ、「おれがやらなきゃだれかやる」になっていた。この会社の将来は…。』(10.27 ぴあ：97 秋第2位)

『友人は入社試験の面接で、あまりに緊張してしまい、「家業は何ですか」との質問に「かきくけこ！」と答えてしまい、家に帰るまで、何で「力行」を尋ねられたか分からなかったそうだ。』(11.23 北海道新聞)

『一人息子がちゃんと留守番できているかどうか、公衆電話から他人のふりをして家に電話してみた。「もしもし、お母さんいる？」息子「いない」。』(3.17 北海道新聞：96 春第2位)

『電話で書店に本を注文した時のこと。住所と氏名を聞かれたので、名前の「和英」を和は「ヘイワのワ」、英を「エイゴのエイ」と答えた。後日送られてきた郵便物の宛て名は「和A様」となっていた。』(95.6.11 毎日新聞：95 夏第2位)

『「水戸黄門外伝・かげろう忍法帖」の最終回で、事件がすべて解決し故郷へ戻ることになった由美かおるたちは、喜びのあまり「ヤッホー」を連発していた。でもそれってもしかしてドイツ語じゃ…。』(ちなみにあの「水戸黄門」には、格さんが「おいハチファイト！」と言ってしまった前科があるらしい。)(95.10.3 ぴあ：95 秋第3位)

『国語のテスト前に問題を出し合っていた中学生の長男と次男。長男の「擬音語にはどんなものがあるか」との問いに、次男は「そうどすえ」と答えていた。』(9.21 朝日新聞)

『新鮮なお魚を「死にたてピチピチ」と言う私を、母はとても嫌がる。だって本当のことじゃないの。』(9.29 ぴあ)

『理髪店で中学生が「少し長めにして下さい」と頼むと、ご主人が「耳はどうしますか」と聞き返した。中学生は少し考えていわく「切らないで下さい。』(10.5 週刊読売)

『おはようからおやすみまで暮らしを見つめる - ストーカー。』(6.29 週刊読売)

『父が入院することになって、病院に予約を入れて自宅で待機していたら、思わぬ早さで連絡が来て、「明日から入院して下さい」。突然のことで、心の準備が出来ていなかった父は、思わず「今、ちょっと体の具合が悪いので、少し延ばしてもらえませんか」と言ってしまった。病院も何の疑問を持たず父の要望を受け入れた。』(6.15 週刊読売)

『小学4年の息子が受けた国語のテストに「もう...してしまった」を使って例文を作りなさい、という問題があった。息子は「もうしわけないことをしてしまった」と書いていた。』(2.1 朝日新聞)

『「JUNKO」というデザイナーのネーム入りトイレマットを敷いた日、夫は「J」の文字を踏んでいたらしく、トイレを出るなり、「あのマットはなんだ」とのたまうた。』(1.18 朝日新聞)

『結婚した教え子から年賀状が来た。「性が変わりました」と書いてあった。』(2.8 朝日新聞)

ははは、「おはようから」と「結婚した教え子」が最高ですね。これらのジョークは週末に私のウェブ・サイト (<http://www.ycaster.com/>) に載せましたから、それを読まれた方は二度読みになりますが、まあこの程度の軽い文章だったら二度読んでも良いでしょう。

皆様には、良い一週間を。

<http://www.ycaster.com/>